

桜花の候 宮崎県防衛協会宮崎支部会員の皆様には、益々ご清福の段、大慶に存じます。先月十一日は、建国記念行事が宮崎神宮で厳かに挙行され、皇紀二六七五年の佳き日を二百名近い参加者と「紀元節の歌」を共に歌いながらお祝いを致しました。

その後、熊本の勇志国際高校、野田校長の講話の中で改めて憲法教育の大切さを痛感し、「美しい日本の憲法をつくる宮崎県民の会」準備会設立を、高らかに宣言した次第です。今月は、先月開催した支部総会冒頭の支部長挨拶を以て、支部長通信と致します。

「まず本会の冒頭に当たり、昨日えびの市山中で遭難し、殉職された、鹿屋基地所属の山本忠浩三佐外二名の海上自衛官の御霊に、心から哀悼の誠を捧げたいと存じます。

さて本日は、宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部総会・懇親会のご案内を差し上げましたところ、中野、右松、十屋県議を始め新田原基地航空救難隊長 増田二佐、関係諸団体の皆様など多くのご来賓にご臨席賜り、会を代表して厚く御礼申し上げます。

また会員の皆様には日頃より当支部運営に際し、物心両面に亘るご支援を賜り、深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第です。

ところで私の手元にあるこの地図は、中国外務省から流出したと云われる『二〇五〇年の国家戦略』地図で、中国の野望は、ウイグルやチベットだけでなく、周辺国も巻き込んで、大中華国を作ることにあるようです。

日本がチベットのようになるといふのは考えただけでもおぞましいことですが、先日就航した「遼寧」や現在建造中の空母等の海軍力によって台湾を併合し、東シナ海のシーレーンを軍事力で圧倒すれば、確実に日本経済の首根っこを中国は押さえる事ができます。

中国の日本侵攻のシナリオは、まず沖繩に工作員を送って、沖繩県民の本土不信を煽り、沖繩を琉球国として独立させるところから始まります。台湾でも使われている手法ですが、中国と経済的なパイプを深める方が経済的にメリットがありますよという風説を工作員が流すと同時に、国家レベルでも琉球国への経済支援策を発表し住民投票で独立が議決後、鹿児島県との「国境」付近に空母を派遣して、海上封鎖されてしまえば、日本はそれ以上の手出しできなくなるでしょう。

同盟国アメリカは、日本のことよりも軍事力の増大した中国を『気づかう』ようになり、「対中東対策が手一杯で、アジアのことはアジアで決めてくれ」と傍観を決め込む可能性も否定は出来ず、そういういくつかの不幸が重なる事で、この『二〇五〇年の国家戦略』地図が実現するかも知れません。

戦後七十年、平和な経済成長政策の中で生活し、国民の多くは国家の安全保障について関心が薄くなってきましたが、地政学で歴史を見ていけばこの間に百近くの国家が興亡の憂き目を見ていることがわかります。

国家として主権を主張し、主権の維持のために必要な処置を怠れば、いつ何時周辺国に併合されるかわからないということが、この百年の歴史の真実です。

日本がそうならぬ為にも我々防衛協会青年部会は、自衛隊の良き理解者として支えつつ、国民との架け橋の役割を、確実に果たさねばなりません。

結びに祖国及び皇室の弥栄と、本日ご参会の皆様のご健勝を祈念申し上げ、簡単措辞で誠に要を得ませんが、支部長挨拶に代えさせて頂きます。」

平成二十七年三月一日